

# 物流問題への取組

## パーソナル 生鮮流通フォーラム

パーソナル情報システム株式会社（本社・東京都港区虎ノ門、森本晋司代表取締役社長）では、第39回全国生鮮流通フォーラムを3月28日、東京・豊洲市場1階講堂とオンライン配信のハイブリッド型で開催した。

今回は「物流24年問題と生鮮流通業界の課題」をテーマに、農林水産省の講演をはじめ、市場流通に関わる生鮮流通業者の経営力強化、経営改善のあり方や生鮮物流現場の

ため、令和5年3月31日「我が国の物流の革新に関する関係閣僚会議」を設置。6月2日に商慣行の見直し、物流の効率化、荷主・消費者の

業務改善事例等を中心に考察を深めた。基調講演は「物流24年問題と市場流通の課題」をテーマに、農林水産省大臣官房新事業・食品産業部食品流通課 卸売市場室長・戎井靖貴氏。

事例研究セミナーは「食品卸流通におけるビジョン策定の在り方」をテーマに、全国米穀販売事業共済協同組合（全米販）の事例から、日本総合研究所リサーチ・コンサルティング部門マネージャー・

石田健太氏と「AI・RFID等を活用した倉庫業務」をテーマに、卸売業のDX（物流）を推進する事業本部事業推進オフィサー・佐々木綾氏（株式会社A.U.D.E.R.代表取締役）が講演した。

石田健太氏と「AI・RFID等を活用した倉庫業務」をテーマに、卸売業のDX（物流）を推進する事業本部事業推進オフィサー・佐々木綾氏（株式会社A.U.D.E.R.代表取締役）が講演した。

石田健太氏と「AI・RFID等を活用した倉庫業務」をテーマに、卸売業のDX（物流）を推進する事業本部事業推進オフィサー・佐々木綾氏（株式会社A.U.D.E.R.代表取締役）が講演した。

石田健太氏と「AI・RFID等を活用した倉庫業務」をテーマに、卸売業のDX（物流）を推進する事業本部事業推進オフィサー・佐々木綾氏（株式会社A.U.D.E.R.代表取締役）が講演した。

石田健太氏と「AI・RFID等を活用した倉庫業務」をテーマに、卸売業のDX（物流）を推進する事業本部事業推進オフィサー・佐々木綾氏（株式会社A.U.D.E.R.代表取締役）が講演した。

石田健太氏と「AI・RFID等を活用した倉庫業務」をテーマに、卸売業のDX（物流）を推進する事業本部事業推進オフィサー・佐々木綾氏（株式会社A.U.D.E.R.代表取締役）が講演した。

石田健太氏と「AI・RFID等を活用した倉庫業務」をテーマに、卸売業のDX（物流）を推進する事業本部事業推進オフィサー・佐々木綾氏（株式会社A.U.D.E.R.代表取締役）が講演した。

石田健太氏と「AI・RFID等を活用した倉庫業務」をテーマに、卸売業のDX（物流）を推進する事業本部事業推進オフィサー・佐々木綾氏（株式会社A.U.D.E.R.代表取締役）が講演した。

石田健太氏と「AI・RFID等を活用した倉庫業務」をテーマに、卸売業のDX（物流）を推進する事業本部事業推進オフィサー・佐々木綾氏（株式会社A.U.D.E.R.代表取締役）が講演した。

石田健太氏と「AI・RFID等を活用した倉庫業務」をテーマに、卸売業のDX（物流）を推進する事業本部事業推進オフィサー・佐々木綾氏（株式会社A.U.D.E.R.代表取締役）が講演した。

石田健太氏と「AI・RFID等を活用した倉庫業務」をテーマに、卸売業のDX（物流）を推進する事業本部事業推進オフィサー・佐々木綾氏（株式会社A.U.D.E.R.代表取締役）が講演した。

石田健太氏と「AI・RFID等を活用した倉庫業務」をテーマに、卸売業のDX（物流）を推進する事業本部事業推進オフィサー・佐々木綾氏（株式会社A.U.D.E.R.代表取締役）が講演した。

石田健太氏と「AI・RFID等を活用した倉庫業務」をテーマに、卸売業のDX（物流）を推進する事業本部事業推進オフィサー・佐々木綾氏（株式会社A.U.D.E.R.代表取締役）が講演した。



講演する戎井靖貴氏



講演する石田健太氏

### 食品卸流通のビジョン

全米販の事例をもとに地域の食料インフラを考案するきっかけになればと思う。背景は危機感。国の将来見通しによる米穀需要量の減、米穀流通は今

後どうあるべきか明確な指針を示す必要があった。4月27日にはさらに深掘りして、現場で実際にやっている物流連携や対策についてフォーラムでフィードバックを動画配信予定。

### AI・RFIDの活用

前回は商品にRFIDタグをはって小売の冷凍庫に納品、出し入れでタグが立ち、減ったら発注。いわゆる自動発注の検証をした。今回は冷蔵庫の中の仕

## 物流革新へ政策決定

農林水産省大臣官房新事業・食品産業部食品流通課 卸売市場室長 戎井靖貴氏

行動変容について、抜本的・総合的な対策をまとめた「物流革新に向けた政策パッケージ」を決定。令和5年10月6日の第

な。②荷主・消費者の行動変容③商慣行の見直し④輸送力不足の解消に向け可能な施策の前倒しを図る。⑤緊急パッケージ⑥荷主・元請事業者の監視体制の強化、適正な運賃の收受、賃上げ等に向け、次期通常国会での法制化を推進、など）を取りまとめる。

24年4月に向けて農産物の物流確保、産地等の負担抑制等について産地等と市場をつなぐ中継共同輸送（日本花き卸売市場協会）を例示。今後の卸売市場整備の方向性（抜粋）を説明した。

RFIDタグは使いまわらせる。カゴ車に貼ることで簡単に費用を下げることができる。